

## 会 議 録

会 議 名	第 2 回橋本創生総合戦略審議会			
日 時	平成 27 年 7 月 9 日（木）午後 1 時 30 分～			
場 所	教育文化会館 4 階 第 5 展示室			
出 席 者	委 員	濱田 學昭 竹部 洋一朗 坂口 和彦 奈良 敦子 小林 大将 野田 幸哉	佐藤 周 廣岡 毅 坂上 研太 曾和 満記 木田 俊男 森川 嘉久	前田 陽一郎 平家 利也 村本 秀子 井上 典至 古田 雅昭 小林 俊治  【出席委員：18 名】
公開状況	公 開			
傍 聴 者	2 名			
次 第	1. 開会 2. 議事 (1) 人口ビジョンについて (2) 橋本市創生総合戦略案について (3) 意見交換 (4) その他 3. 閉会			
資 料	資 料 1：橋本市人口ビジョン案（事前配布資料） 資 料 2：橋本創生総合戦略案 資 料 2-1：国、県総合戦略及び橋本創生総合戦略案の体系図 資 料 3：第 1 回橋本創生総合戦略審議会での意見のまとめ 資 料 4：橋本創生総合戦略審議会委員提案について			

## 1. 開会

- ・事務局より開会の挨拶、資料確認を行う。
- ・事務局より総合戦略審議会の開催にあたり、委員数 20 名のうち 18 名と過半数の出席により本会議が成立していることを報告する。

## 2. 議事

(会 長) 本日は、第 2 回目の会議であり、全体として 4 回を予定しております。総合戦略をまとめていくにあたり、さまざまな意見をいただけたらと思っています。まず、今回の議事については非公開とする案件を含まないために公開とさせていただいてよろしいか。

<「異議なし」の声あり>

(会 長) 異議なしということですので、公開とさせていただきます。本日の傍聴人につきまして事務局から報告願います。

- ・事務局より 2 名の傍聴者がある旨を報告する。

(会 長) 傍聴者の方どうぞご入場下さい。

- ・会長が会議録の署名委員に竹部洋一朗委員と坂上研太委員を指名する。

(1) 人口ビジョン案、策定スケジュールについて

【資料① 橋本市人口ビジョン案・橋本創生総合戦略策定スケジュール】

- ・事務局が資料に基づき説明する。

(会 長) ただいま事務局から説明がありましたが、意見等はないでしょうか。

(委 員) 税金や、人口を確保するために使える事業費など、今後どのようなようになっていくのか。

(事務局) 人口を確保するにあたり、どのような施策が必要かということを経済戦略の中で検討していくことになるが、施策をするには事業費が必要となります。社会保障費やその他費用の問題についてもどれだけの税金や財源を確保してサービスに充てられるかを考える必要があるので総合戦略において検討していくこととしています。

(委 員) 出産時に苦勞が少ないほうが、また生みたくなると思うので、十

分な支援を行い、子育てに希望をもてるような施策をしていただけたらと思います。

(事務局) 子育てに対する支援等は必要な事だと思いますので、戦略の中で検討します。

(副会長) 地方消滅、増田レポートでもあったように、子どもの出産可能年齢である若い女性人口が何人になるのかということが基準のひとつとなっている。橋本市のこれらの女性がどれくらいになるのか等、地方創生について国と同じデータの整理等を行えないか。次に、第1回審議会の資料より人口ビジョンにおける分析資料を見ると、大阪へ転出される方が多いので、これらの対策を検討するにあたり、空き家率等具体的な数値等把握しておく必要があるのではないかと。

(事務局) 増田レポートについてですが、本市の人口ビジョンの考え方は社会保障・人口問題研究所のデータを基に2060年までの推計値で作成しております。また、地区別の空き家については、ニュータウン等でも増加してくると思われるので、空き家対策特別措置法等に基づき、空き家を調査し、これらの情報を活用し人口の流入に繋がる施策を検討していければと思っています。

(会長) 人口について議論するのは難しいと思いますが、先程、人口問題研究所と増田レポートの話が出ましたが、人の出入り少ない地域では子どもを産める女性の数と1人当たりの女性が何人出産するかが重要となる。また、出入りのある地域では、どこの地域でどの程度の人が転入、転出しているのかを把握するとともに居住者が橋本市についてどのように感じているのかなど、色々なことを考え人口ビジョンを策定していただけたらと思います。

(会長) 他にないでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、議事1「人口ビジョン」については、原案とおりにすすめていただけてよろしいか。

<「異議なし」の声あり>

(2) 橋本市創生総合戦略について

【資料② 橋本市創生総合戦略案】

【資料②-1 国、県総合戦略及び橋本創生総合戦略案の体系図】

【資料③ 第1回橋本創生総合戦略審議書きでの意見のまとめ】

【資料④ 橋本創生総合戦略審議会委員提案について】

・事務局が資料に基づき説明する。

(会 長) 休憩後、意見交換に移りたいと思います。

【 休 憩 】

(会 長) それでは、議事3の意見交換に移りたいと思います。

(3) 意見交換

(委 員) 第1回審議会での資料を商工会議所の役員や委員会で見てもらい、意見をもらいましたが、多かったのは本市をPRし、流入人口を増やすとのことであった。また、橋本市は災害が少なく、自然環境が豊富であることも合わせて、大阪に向けてPRするために看板の設置や、南海と協力してはどうか。

東京のある区では子どもの数が増えている。その理由は2人目、3人目の子どもに対しての補助金を出している事例がある。このように2、3年で出生率が上がるのであれば、このような、出産することに対しお金を補助することが有効だと思うので、やってみて検証するのもいいのではないか。今まで、少子高齢化問題については、色々考えられてきたが、解決になっていないのが現実。

それから、恋愛・結婚に対する若者の意識が低いと思われるので、中高生などに年齢層を下げ、若者の恋愛感を上げる取り組みも必要である。また、妊婦さんが橋本で出産したいと思ってもらえるよう充実した施設等の医院の誘致を行いPRもしていけば良いと思います。

(会 長) 橋本市の流入人口を上げることは、市で長年考えてきたテーマだと思います。実際のデータ分析で明らかになることがあると思います。例えば橋本市が人口を増やすため大都市圏へ呼びかけても阪神間の人たちが橋本市に移住するということはほとんどなく、沿線での人の移動が限られており、橋本では河内長野市、大阪狭山市、堺市などが重要となる。ただ今は、逆に河内長野市、狭山市、堺市など出て行く人が多くなっていることが実情であり、増加しているところは五條市、かつらぎ町、高野町の地域であるこ

とから、橋本に来てもらうためにはどうしたらよいか。また、地域としての核となる魅力をつくることも大切である。それと、引っ越しするにあたり、やはり奥さんの決定権が強いと思うので、奥さんに魅力的なまちであることをアピールすることが重要である。橋本市は「かわいい」「お洒落」「楽しい」など魅力的なまちと感じてもらうことが大切である。

(委員) 出生率を上げていくことと平行してやらなければならないことがあると思う。例えばどんな人間を育てたいのか、どんなまちにしたいのかを総合戦略に記載してもいいのではないか。橋本市の5年後、10年後のビジョンについて明確にし、現状の課題と平行し、子どもや孫の世代のことを考え、手法については、定期的に検討する必要があると思います。

(委員) 橋本市は災害に強いまちでもあることから、沿岸部にある企業など津波等の危険性がある企業へのPRに力を入れてはどうか。また、企業誘致のPRだけではなく、地元の農作物や工業製品に対しても、クラウドファンディングなどの手法を取り入れ、寄付や出資など民間資金を調達しPRなども行ってはどうか。また、高野山に行かれる外国人観光客等の人がよってくるように駅前のPR力をあげてはどうか。

(委員) 基本目標の2の移住促進や、交流人口はこれで良いと思うが、1、3、4は内需に関する部分については、国や県と同じようなことをやるのではなく他とは違うやり方でやってみてはどうか。企業誘致だけでなく、既存の中小企業などの雇用を増やす施策も入れてはどうか。孫に対して何かする場合の補助や、2世代同居などに対する補助などの核家族化への対策を行うなど新しい視点で取り組んではどうか。

(委員) 先日、はしもとカフェミーティングで企業誘致のグループに参加したのですが、新たな雇用により人口の増加につながると聞き、企業誘致は将来性があると感じました。公園は、子どもの数が減っているなか、公園利用者をあまり見かけない。既存の公園の安全性について考えてもらいたい。新興住宅地については、建物の老朽化により、改修しないといけない建物が多いので、改修費など出せない住民への補助が必要と考える。

(委員) シティーセールスということは、非常に大事であると思います。沿線での移動について限定されるというお話がありましたが、本市でもこの沿線で何を訴えていくか重要と考えます。例えば、即効性のある戦略として子育てや出産に関して直接的な支援を行う。また、住宅のストックについて整理し、空き家の情報を流動的に運用していくという考え方が必要である。また、地域の不足している業態、例えばスーパー等の出店戦略について市から働きかけていくことも重要。また、両親と移住してくる場合、将来における介護の問題等、安心して暮らせる施策など、シティーセールスにおけるセールスの部分について情報をまとめ、直接的に訴えていくような取り組みが必要かと思います。選択肢の中に橋本市が入るようにしないとイケない。施策もパッケージとして取り組んでいくことが重要と考えます。

(委員) 和歌山県は、和歌山産業を支える人づくりプロジェクトで、会社経営者の学校訪問、インターンシップ、校内での企業説明会、企業への教員研修などを実施し、県内就職を推進しており、本校においても生徒に資料を配布するなどアピールしてきたが、大阪に近いこともあり県内での就職率は43%で、それ以外は県外への就職者となり県が目標とする85%よりも下回っています。高校卒業者の就職は仕事のストレスなどにより定着しないことが多いが、地元での就職者と県外での就職者を比べると地元就職者は定着する傾向があり地元就職はメリットであると考えます。このことから市内の就職率を上げることは出生率の向上にも繋がると考えますので、低学年など早い段階で、地元企業を知ってもらうことが重要である。企業説明会や橋本市で働く魅力等についてもPRを強化するような施策も有効だと思えます。

(委員) 企業としては、即戦力になるような人材を望んでいます。そのため地元企業で使用する機械や設備を例えば高校に授業の実習機材として置いて頂き、技能を習得してもらうようなことはできないか。

(委員) 汎用性のある機械であれば良いとは思いますが、専門すぎる機械は難しいと思います。

(会長) インターンシップ制度を利用し、企業での体験実習が適切だと思われれます。

(委員) 高野山へ行ったとき、おしゃれな店で再織りの商品が売られており、そこで店員にやさしく教えてもらい、地元の再織りについてあらためて、その良さを実感した。地元製品の良さを知らない人もいるので本市の産業をお洒落にアピールしたお店等あればと思います。橋本駅前にも観光案内所があるが、入り口も分かりにくく、アピール感がない。来てもらいやすい、入ってもらいやすくする工夫が必要。まずは、地元の人にアピールしていくことが重要だと思う。

(委員) 市の文化力を上げ人間関係を大切に、橋本市に根をはり、住み続けたいくなるようなまちづくりの施策が必要。また、市の体育館は、駅から遠いので不便なため、車に乗らない方や、高齢者の方へのことも考えシャトルバス等の運行について検討していただけないか。

(副会長) 今、何をやるかについて、アイデアを一生懸命出しても、それだけではなかなかうまくいかない時代である。何をやるかではなく、どのようにやるかが重要である。例えばコミュニティであれば、人間関係が深まるようなことが社会的な基盤となる。ハードではなく、制度や組織、地元の人間関係が重要であり、このような関係が強いと事業等しやすくなるのではないか。そのためには、地元での活動を増やす必要がある。例えば、オープンデータを活用や、マッピングパーティーやまち歩きイベント等、地元に関心を持ってもらうための取り組みが求められているのではないか。橋本市の住宅情報をインターネットで調べたことがあるが、ほとんど掲載がなく、露出度が低い。情報を出していくこと非常に大事。また、周辺の都市と役割を明確にし、地域の戦略を行っていくためには、地域間での協力が必要。

(会長) 皆さん熱心な意見ありがとうございました。単的に何をやるましか、何を指すましかについて考えるということが重要である。もう一つは、地域が輝き持続していくためには、経済のように外との繋がりを大切に、孤立しないことが重要である。そのために総合戦略をどのように組み立てていくかを考えていく必要があります。長時間になりましたが、以上をもちまして本日の議事については終了いたします。

#### (4)その他

(会長) その他連絡事項について事務局よりお願いします。

(事務局) 3点の事務連絡をしたいと思います。1点目は、意見交換で意見をいただきましたが、その他意見については、7月30日までに事務局のほうに、ご連絡いただけますよう、おねがいします。2点目ですが、次回審議会は8月21日の同じ時間帯を予定しています。3点目、審議会資料等につきましては会議1週間前までに、送付させていただきますのでよろしくおねがいします。

### 3. 閉会

(事務局) それでは、これもちまして第2回橋本創生総合戦略審議会を終了させていただきます。長時間どうもありがとうございました。今後とも、皆様のご協力をよろしくおねがい致します。